

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101749	
法人名	福島中央市民医療生活協同組合	
事業所名	なごみの家	
所在地	福島県福島市北沢又字下台前1-2	
自己評価作成日	平成23年8月17日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成24年1月24日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の"想い"を大切に、個人個人が生き活きと生活できるような環境作りを行っています。また、職員も入居者の皆様と楽しく生活できるよう、東棟・西棟職員一同協力して頑張っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、管理者は職員の自主性を尊重して、リーダーを中心に職員に問題解決の裁量を与え、意見や提案は随時ケアに反映されるように責任をもたせている。  
2、リーダーと職員が一致団結して協力し合い、ケアサービスの向上に取り組み、笑顔と生き生きとした職場環境づくりに努めている。  
3、年6回なごみの家新聞を家族や関係者に配布している。利用者の活動写真紹介や職員挨拶、事業所の行事案内のほか学習会での知識は家庭でも直ぐに役に立つ内容でイラスト入りで解りやすく掲載している。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>実践出来ている。</p> <p>事業所での理念をベースに、各棟で話し合っって棟の理念を作成し、日々実現に向けて努力している。</p>	<p>法人理念を踏まえて、毎年事業所理念を職員全員でつくることで、心ひとつになって理念に沿った支援に努めている。一年後には管理者と職員で実践状況について話し合い、具体的なケアサービスの統一を図っている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入したり、散歩や買い物など地域へ出かけるようにし、近所の方々とは話をするようにしているが、まだまだ日常的な関わりにはなっていない。</p>	<p>新興住宅団地内にあり、近隣住民同士の日常的な関わりが消極的な地域なので、地区町内会に加入して新年会や地区総会などに参加している。更に地域ボランティアにも働きかけて交流を深めるよう図っている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>努力はしているが、なかなか実践出来ていない。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自己評価、外部評価などの結果も踏まえ報告し、意見を頂き、日々の業務に活かせるように努力している。</p>	<p>運営推進会議は定期的開催している。毎回家族の参加者が多く、現状や取り組みについて報告や話し合いを行い、積極的に意見を出してもらいサービス向上に活かしている。</p>	<p>推進会議に地域の区長、民生委員、班長さん方々にも参加を働きかけ、情報交換や意見交換をできるような協力関係の構築を期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターが近い為、情報交換や相談が行えている。</p>	<p>主には地域包括支援センターとの間で情報交換や事業所の取り組みを伝えていることで支所窓口との連携を図っている。必要時には支所担当者と相談や報告を行なっている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、すべての職員が具体的な行為の理解には至っていないので、会議などを通して理解を深めていきたい。</p>	<p>職員全員が身体拘束の内容と弊害を研修やミーティングで学び、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関はオープンになっていて、声掛けや見守りを徹底して利用者の自由な暮らしを支援している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加したり、法人内で学習会を開催するなど、日々意識して努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は日々学習しているが、全職員の理解と活用には至っていない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前には事前に訪問調査を行い、入居時にも利用者や家族と話す機会を持つようしている。また、退去後も必要に応じて、家族とコミュニケーションを取るよう努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見については、日々の関わりの中からその都度聞き取りを行い対応出来るよう努めている。家族からの意見などは、面会や運営推進会議などの機会を利用し、意見・要望を聞き努力している。</p>	<p>利用者担当制にして日常の関わりの中から思いや要望を汲み取り、職員同士で話し合いケアに繋げている。家族には日頃から何でも言ってもらえるような関係をつくり、訪問時や推進会議での率直な意見・苦情を運営に反映させている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議等を通して、職員からの意見を反映している。</p>	<p>管理者は職員一人ひとりの自主性を尊重している。リーダーと職員のチームワークで問題解決を図れるように裁量権を与えていて、運営に反映させている。全員が運営に関わることで働く意欲の向上や質の確保に繋げている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員ひとりひとりと面談、アンケートなどを通してやりがい等、職場環境を整える努めている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の学習会への参加、また、外部研修への職員の積極的の受けられるよう機会を設けている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会などの会議、学習会に職員が参加することで交流の場が提供でき質向上に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には事前訪問を行い、利用者と直接話をする機会を通して、関係づくりに努めている。</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前には事前訪問を行い、家族と直接話をする機会を設けている。また、不安要因は入居前に解決出来るように努めている。</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の話聞くことを大切にし、選択肢がある時にはそれぞれに説明を行い、納得のいくサービスの提供に努めている。</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活者として、本人の意思を尊重し、一緒に行えることは行うように意識している。また、業務優先の関わりにならないように、努めていきたい。</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えたい関係を築いている</p>	<p>面会時に本人の様子をお伝えしたり、行事等への家族参加の声かけを行ったりと、一緒に支援できるような関係づくりに努めている。</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人、近所の方などが面会にきやすいように配慮しているが、利用者が行きたい場所や会いたい人との関わりについては場所が遠い場合には難しい状況にあり行けていない。</p>	<p>利用者の行きたい場所や会いたい人の希望を聴き、思い出の温泉希望にも応えている。隣接の老人保健施設にじのまちに馴染みの人が来ているときは会えるように配慮して、継続的な交流が出来るよう働きかけている。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性が分かるように申し送りや記録を活用し支援している。うまくいかない場合には、職員が介入し関係調整に努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去されたご家族からの相談はあり、その都度対応しているが、それ以上の関わりには至っていない。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>上手く表現できる方が少ないので、何か希望が常に模索するように努めている。</p> <p>棟会議で各入居者のモニタリング、ケースカンファレンスをし、実践できるように努めている。</p>	<p>利用者担当制にして日々のケアの中で、生活歴を参考に思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な方には行動や表情からくみ取り、本人がどのように暮らすのが最良なのか職員間で検討している。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時のアセスメントにて、全体化している。</p> <p>入居時にとどまらず、その都度の経過についても、全体化し把握できるように努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>生活全体を見た上での、その方に合わせた過ごし方が出来るように努めている。</p>		
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族面会時の話の中やご本人の日ごろの様子を、棟会議で話し合いを行なうことにより、現状に即した介護計画となように作成している。</p>	<p>利用者、家族、医療関係者の情報をもとに担当職員が取りまとめた原案をつくり、計画作成担当者を中心に職員全員で総合的に判断して、即応性、柔軟性を持たせ現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活の様子は電子カルテを活用し、できるだけ細かく記録し、日々のケアに活用できるようにしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ニーズが発生した場合には都度対応し、必要に応じて会議などで話し合いを行い柔軟なサービスの提供に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>その方によってだが、地域資源を活用しているが、全ての方が関わっているわけではないので努力していきたい。</p>			
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族やご本人の希望されるかかりつけ医への受診を大切に、受診の際には情報提供書を準備しかかりつけ医と連携するように努めている。</p>	<p>基本的には家族付添いのかかりつけ医受診となっているが、必要に応じて事業所が対応している。受診時には情報提供書を活用することで主治医や家族とも連携が図られ、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療的な指示や、日常生活を送る上で変化があった際には、訪問看護師にすぐ相談出来ている。</p>			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、病院側との情報交換や相談を行っている。</p>			
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時からご家族の意向を確認し、入居者さんの身体状況の変化があったさいには、主治医や訪問看護師を含め、その都度話し合いを行い確認するように努めている。</p>	<p>本人や家族の意向を踏まえ、身体的状況変化に応じて主治医、訪問看護師と連携を取り、随時本人や家族の意思を確認している。安心して納得した最後が迎えられるように支援している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成するとともに、学習会に参加している。</p>			
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を行い、災害時には職員が駆けつけられるようにしているが、あらゆる災害を想定した訓練に努めていきたい。</p>	<p>消防署立ち合い防災訓練と自主避難訓練を実施している。東日本大震災時は隣接の併設機関老人保険施設にじのまちとの協力体制で安全の確保ができた。災害対策として3日間の食糧品備蓄と停電、断水への備えも出来ている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方の人格を認め、感謝の意をこめながら言葉かけをするようにしている。	一人ひとりの思いや人格を尊重し、特に着替え、入浴、排泄時には誇りやプライバシーの確保に基づいた対応を心掛けている。馴れ馴れしい言葉使用の禁止と日頃から礼儀を守るように努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いて本人と話ができるように隣に寄り添い、思いを聞くように努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんのその日の体調や気分を考慮しながら、一人ひとりの生活のペースに合わせて、希望を聞き取りながら対応している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類を準備したり、ご本人に着たい服を選んで頂きながら支援している。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じた活動(盛り付け、食器洗い、食器拭き)をしていただいている。	献立・食材は業者依頼しているが、週2回は利用者の希望献立を取り入れている。食材の買い出し、調理や盛り付け、片付けなど職員と一緒に出来ることを行っている。食事は職員も一緒に摂り、味加減や好みを聴いたりして食事を楽しんでもらえるよう工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好や疾病や食事量に考慮しながら行なっている。また、食事量が変化した時には、都度確認し支援している。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎のリスクを減らすことを念頭に置き、それぞれの方の能力に応じた声かけや対応にて口腔内の清潔に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや生活習慣をつかみ、トイレでの排泄を促せし、支援している。	利用者本人の排泄パターンや状態を観察し、タイムリーな声掛けをすることで、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取に心がけ、毎日の軽体操を取り入れている。また、オリゴ糖摂取に取り組み、個々に合わせた摂取量に、薬の使用を減らしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	曜日や時間帯を決めず、入浴を楽しめるように、個々にあわせ支援している。	利用者本人の入浴希望を確認し、その日の体調に合わせた入浴を行い、利用者全員が週2～3回入浴するように支援している。身体的に一般入浴が困難な利用者は隣接施設で機械入浴ができるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ、お昼寝の時間をつくったり、足浴を行いリラックスできる時間の提供を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の服用についてのファイルを作り、常に確認出来るようにしている。また服薬支援の際には、効果などを理解し支援するように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りを一緒に行ったり、買い物へ行き好きなものや食べたいものを選んで頂いている。また、季節感を味わってもらう為に、散歩やドライブなど外へ出る機会を設けるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ自由に出ていけるように個別に支援している。また、家族や知人などと出かけ外食を楽しむなどの支援も行っている。	利用者一人ひとりの誕生日お祝いを外出希望にしている。家族や知人と出掛けてもらったり、職員と出掛けたりして好きな所への外出支援をしている。利用者全員による外食の機会やお花見、芋煮会など季節合わせて戸外で楽しんでもらえるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物や外出時には、ご自分で支払いをしていただけるように、支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば実施出来るようにしている。しかし、手紙に関しては定期的な関わりがもていないので、今後やり取りができれば良い。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>窓際や廊下に鉢植えや飾りを置いたり、掲示板には季節ごとの飾りを飾っている。また、家具や照明にかんしても、素材や色合いなどを工夫している。</p>	<p>ダイニング・リビングは明るく開放的で、目配り気配りのできる配置になっている。障子の畳間には炬燵があり、壁には年中行事の貼り絵や縁起物が飾られて、家庭生活の中にいるように居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下の窓際に椅子を用意したり、和室を活用し個々がゆっくりくつろげる空間の提供を工夫している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と相談して自宅で使っていた家具や仏壇などを設置し、入居者さんが居心地がよく過ごせるように工夫している。</p>	<p>利用者が混乱することのないように各居室ドアには本人の好みに合わせたマスコットを下げている。使い慣れた家具やお気に入りの物を居心地良く配置してもらい、家庭生活の延長のように過ごせるよう配慮している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来ること、出来ないことの見極めを行い、必要に応じて目印を設置したり、危険なものを取り除いたり、自立した生活が送れるように支援している。</p>		